

# SPARC T3-1B サーバーモジュール

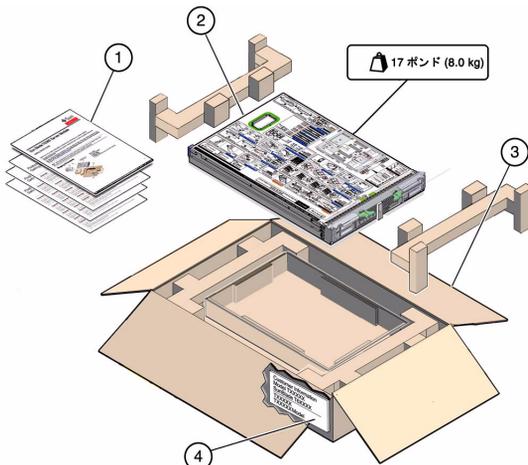
## ご使用の手引き

このマニュアルでは、Oracle の SPARC T3-1B サーバーモジュールをはじめて設置して電源を投入するために必要な、最小限の手順について説明します。

より詳しいインストール情報については、オンラインの『SPARC T3-1B サーバーモジュール設置マニュアル』および、お使いの Sun Blade 6000 モジュラーシステムの設置マニュアルを参照してください。オンラインドキュメントの URL の一覧は 6 ページの「[その他の情報の参照先](#)」に示します。

注 - このサーバーモジュールを設置する前に、最新の『SPARC T3-1B サーバーモジュールご使用にあたって』で、設置要件に影響する最新の問題がないかどうかを確認してください。

## 出荷用キットの内容



### 各部の説明

- 1 印刷版マニュアル
- 2 サーバーモジュール
- 3 出荷用梱包箱
- 4 顧客情報シート (MAC アドレスおよびその他の情報が記載されているため、保存しておいてください)

## ▼ オプションのコンポーネントを取り付ける

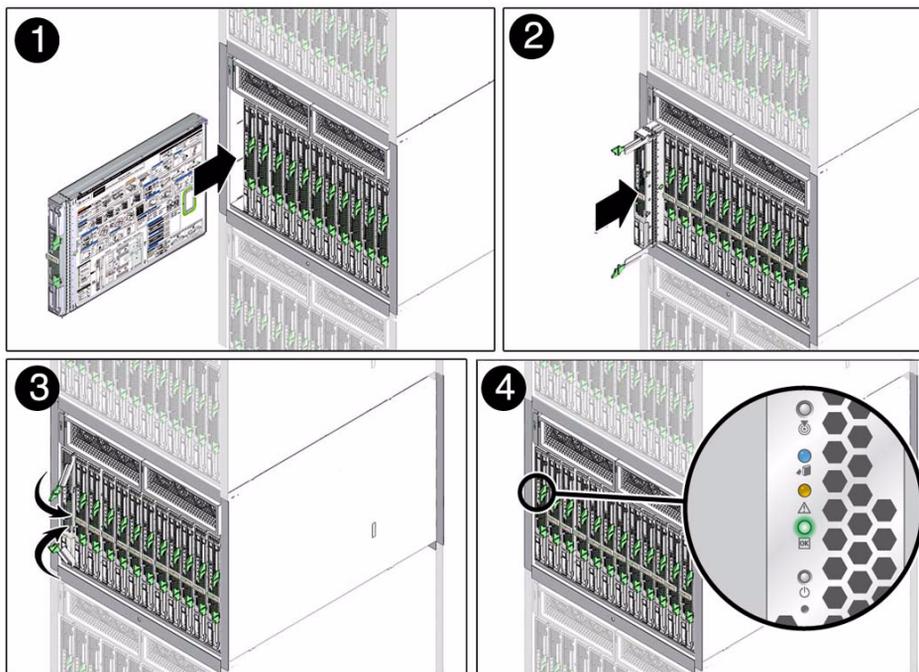
- ◆ サーバーモジュールをモジュラーシステムのシャーシに取り付ける前に、サーバーモジュール用に注文したオプションのコンポーネントを取り付けます。

オプションのコンポーネントは、受け取ったサーバーモジュールにインストール済みです。詳細は、顧客情報シートを参照してください。オプションのコンポーネントの取り付け手順については、各コンポーネントの文書および『SPARC T3-1B サーバーモジュールサービスマニュアル』を参照してください。

## ▼ サーバーモジュールをシャーシに取り付ける

サーバーモジュールは、ホットプラグによってシャーシに取り付けることができます。本書に示す手順では、Sun Blade 6000 モジュラーシステムが設置され稼働中であることを前提とします。

1. シャーシ内の対象のサーバーモジュールスロットから、フィラーパネルを取り外します。  
60 秒以内に、空のスロットにサーバーモジュールまたはフィラーパネルを挿入できるよう準備してください。
2. シャーシの前面から約 1.5 cm (0.5 インチ) の位置まで、シャーシにサーバーモジュールを挿入します (パネル 1)。  
保守ラベルがあるサーバーモジュールの側面が右側に向いています。



3. 取り外しレバーを拡張し (パネル 2)、取り外しレバーをロックされる位置まで同時に押します (パネル 3)。

4. サーバーモジュールの緑色の OK LED を確認して、サーバーモジュールが挿入されたことを確認します (パネル 4)。

サーバーモジュールが接続されると、スタンバイ電源がサービスプロセッサ (SP) に供給されます。フロントパネルの LED が 3 回点滅し、フロントパネルの緑色の OK LED が数分間点滅します。電源の入ったモジュラーシステムにサーバーモジュールが接続されるとすぐに、サーバーモジュール SP に診断メッセージが表示されます。



**注意** - 適切に冷却するため、すべてのスロットにサーバーモジュールまたはフィルターパネルが設置されているようにしてください。モジュラーシステムを電源に接続してから 60 秒以内に、すべてのスロットに設置してください。

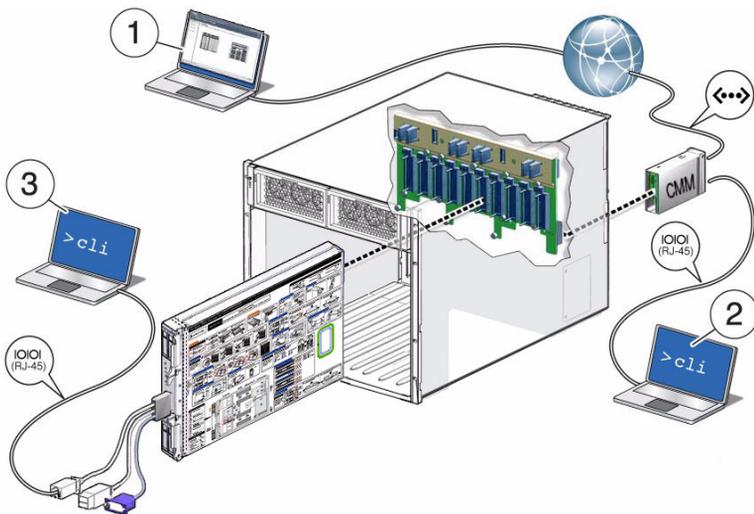
## ▼ 接続方法を決定する

サーバーモジュールの SP 上で動作している Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) ソフトウェアを使用して、サーバーモジュールの起動、ブート、および管理を実行できます。モジュラーシステムのシャーシ管理モジュール (Chassis Management Module、CMM) 上で動作している Oracle ILOM から、サーバーモジュールを制御することもできます。

サーバーモジュール SP への接続方法は複数あります。

- ◆ 次の図および表に示すいずれかの方法を使用して、サーバーモジュールに接続します。

このマニュアルでは方法 1 を使用していますが、『SPARC T3-1B サーバーモジュール設置マニュアル』で説明されたその他の方法を使用することができます。



方法	接続	説明
1	Ethernet 接続元: CMM NET MGT ポート 接続先: お使いのネットワーク	(このマニュアルにはこの方法について詳しく説明しています) CMM NET MGT ポートがネットワークに接続されていることを確認します。 ネットワークから、CMM の IP アドレスを使用して、CMM 上の Oracle ILOM にログインします。Oracle ILOM プロキシを使用して、サーバーモジュール SP の Oracle ILOM インタフェースに移動します。Oracle ILOM コマンド行インタフェース (CLI) または CMM Oracle ILOM Web インタフェース (「サーバーモジュール SP の Oracle ILOM へのアクセス (Web インタフェース)」で説明) を使用できます。
2	シリアル 接続元: CMM SER MGT ポート 接続先: 端末デバイス	端末デバイスを CMM SER MGT RJ-45 ポートに接続し、Oracle ILOM を使用してサーバーモジュール SP の Oracle ILOM インタフェースに移動します。この方法では、Oracle ILOM CLI のみを使用できます。
3	シリアル 接続元: サーバーモジュール SP UCP ポート ( dongle 必須 ) 接続先: 端末デバイス	UCP-3 ドングルケーブルをサーバーモジュールに接続します。端末デバイスを dongle ケーブルの RJ-45 コネクタに接続します。Oracle ILOM CLI を使用して、サーバーモジュール SP 上の Oracle ILOM と通信します。

## ▼サーバーモジュール SP の Oracle ILOM へのアクセス (Web インタフェース)

この手順は、CMM 経由で Web インタフェースを使用してサーバーモジュール Oracle ILOM CLI にアクセスする、方法 1 で使用します。この手順を実行するには、CMM の IP アドレスを知っている必要があります。また、この手順は、DHCP 環境があることを前提としています。その他の環境の場合は、『SPARC T3-1B サーバーモジュール設置マニュアル』の手順を参照してください。

1. CMM NET MGT ポートがネットワークに接続され、ネットワーク上で通信するように構成されていることを確認します。  
詳細は、Sun Blade 6000 モジュラーシステムのドキュメントを参照してください。
2. モジュラーシステムと同じネットワーク上のブラウザで、CMM の IP アドレスを入力します。  
例えば、CMM の IP アドレスが 129.99.99.99 の場合、このアドレスをブラウザに入力します。Oracle ILOM のログインウィンドウが表示されます。
3. ユーザー名とパスワードを入力して、CMM で Oracle ILOM にログインします。  
出荷時のデフォルトでは、Oracle ILOM の root のパスワードは、changeme です。  
これで、CMM Oracle ILOM の Web インタフェースにログインしました。
4. サーバーモジュール SP に移動します。
  - a. モジュラーシステムのシャシ表示を選択します。
  - b. モジュラーシステムに設置したサーバーモジュールの画像をクリックします。  
モジュラーシステムのスロットは、0 から 9 までの番号が付いています。
5. トップメニューで、「Remote Control (遠隔コントロール)」を選択します。  
ビデオリダイレクションまたはシリアルリダイレクションのどちらかを選択するよう表示されます。

6. 遠隔コンソールを起動します。

- a. 「Redirection (リダイレクト)」タブを選択します。
- b. 「Use serial redirection (シリアルリダイレクションを使用する)」をクリックします。
- c. 「Launch Remote Console (遠隔コンソールを起動する)」をクリックします。

7. サーバモジュールの電源を入れます。

- a. 「Remote Power Control (遠隔電源コントロール)」タブを選択します。
- b. タブのメニューをクリックして、「Power On (電源投入)」を選択します。
- c. 「Save (保存)」を選択します。
- d. 「Are you sure you want to perform a Power On of the server (サーバの電源投入を実行してよいですか)」というプロンプトが表示されたら、「OK」を選択します。

サーバモジュールのホストの電源がはじめて投入されます。サーバモジュールハードウェアの設置が完了し、サーバモジュールをニーズに合わせて構成する準備ができました。Oracle Solaris OS の構成プロセスの詳細については、『SPARC T3-1B サーバモジュール設置マニュアル』およびお使いの Oracle Solaris OS のバージョンのインストールガイドを参照してください。

## ▼サーバモジュールのホストに電源を投入する

「サーバモジュール SP の Oracle ILOM へのアクセス (Web インタ フェース)」の手順を使用せず、コマンド行を使用する方法でサーバモジュール SP にアクセスした場合、この手順を使用してサーバモジュールのホストに電源を投入する必要があります。

1. サーバモジュールのホストに電源を投入します。

```
-> start /SYS
Are you sure you want to start /SYS (y/n)? y
Starting /SYS . . .
```

サーバモジュールが初期化されます。

2. 通信を、サーバモジュールのホストに切り替えます。

```
-> start /HOST/console
Are you sure you want to start /HOST/console (y/n)? y
Serial console started. To stop, type #.
```

サーバモジュールで POST を完了するのに、数分かかることがあります。Oracle Solaris OS がインストールされている起動デバイスにローカルからアクセスできる場合は、サーバモジュールが起動します。ローカルからアクセスできない場合、システムは boot net コマンドを使用して、ネットワーク上の起動デバイスを検索します。

これで、サーバモジュールのホストに接続しました。

サーバモジュールハードウェアの設置が完了し、サーバモジュールをニーズに合わせて構成する準備ができました。Oracle Solaris OS の構成プロセスの詳細については、『SPARC T3-1B サーバモジュール設置マニュアル』およびお使いの Oracle Solaris OS のバージョンのインストールガイドを参照してください。

## ▼最新の OS、パッチ、およびファームウェアを確認する

お使いのサーバーモジュールで、より新しいバージョンの OS、パッチ、およびファームウェアを利用できる場合があります。一部の機能は、特定のパッチまたはファームウェアがインストールされている場合にのみ利用可能になります。最善のパフォーマンス、安全性、安定性を得るために、利用可能な最新バージョンをインストールしてください。

1. 次の『SPARC T3-1B サーバーモジュールご使用にあたって』を確認してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.t3.1b#hic>

このドキュメントには、製品の重要な依存関係および最新情報が記載されています。

2. 次のシステム管理ポータルから、最新の OS、パッチ、およびファームウェア情報にアクセスします。

<http://www.oracle.com/technetwork/systems/software-stacks/stacks/index.html>

「Blade Servers」の見出しの下から、「SPARC T3-1B Server Module」リンクを選択します。

## その他の情報の参照先

Oracle の SPARC T3-1B サーバーモジュールの文書を、<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.t3.1b#hic> で検索してください。

ドキュメントの翻訳版を参照するには、次の URL にアクセスし、言語を選択してください。

<http://docs.sun.com>

作業	文書タイトルまたは URL
既知の問題、回避策、および新しい情報を確認する。	『SPARC T3-1B サーバーモジュールご使用にあたって』
最初の設置および構成で、サーバーモジュールに接続する。	『SPARC T3-1B サーバーモジュール設置マニュアル』
遠隔アクセスを設定する。システム状態およびイベントログを表示する。	『SPARC T3 シリーズサーバー管理マニュアル』
サーバーモジュールを診断し、障害追跡を行う。コンポーネントを取り外し、交換する。	『SPARC T3-1B サーバーモジュールサービスマニュアル』
安全のための情報を確認する。	『SPARC T3-1B Server Module Safety and Compliance Guide』 『Important Safety Information for Sun Hardware Systems』
シャーシ固有のハードウェアおよび Oracle ILOM 情報にアクセスする。	<a href="http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.srvr">http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.srvr</a>
インストール済みの OS 情報にアクセスする。	<a href="http://www.sun.com/software/preinstall">http://www.sun.com/software/preinstall</a>

## 技術サポート

このマニュアルに記載されていない技術的な問い合わせについては、次の URL にアクセスしてください。

<http://jp.sun.com/service/contacting/>

---

## ドキュメントのフィードバック

コメントは、次の Web サイトで「Feedback [+]」のリンクをクリックしてお送りください。

<http://docs.sun.com>

コメントには、次のタイトルおよびパート番号をご記入ください。『SPARC T3-1B サーバーモジュールご使用の手引き』(E21522-01)

Copyright © 2010, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.



Part No.: E21522-01  
2010 年 12 月、Rev A

